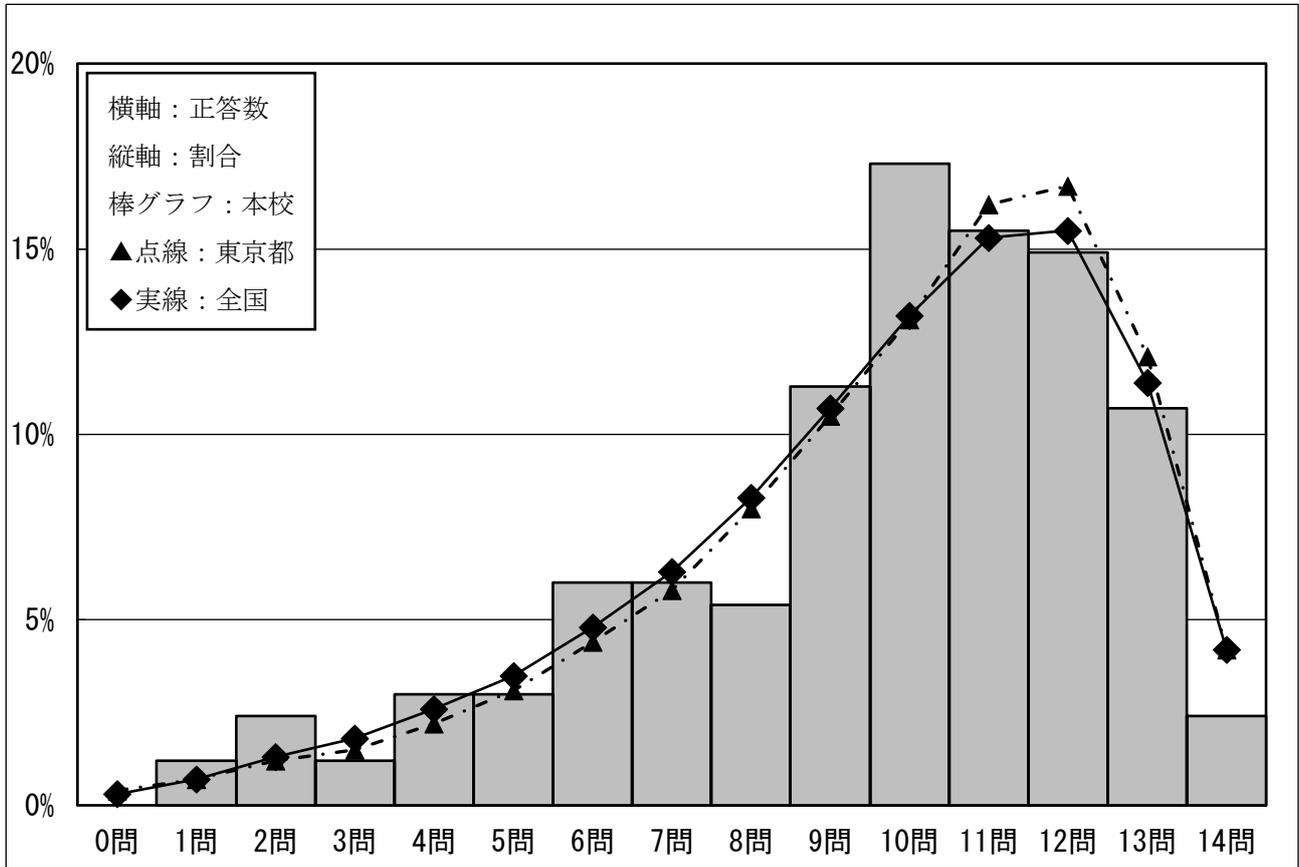


令和4年度 全国学力調査（中3対象）の結果より

国語



学習指導要領の「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」の平均正答率において、「知識及び技能」では(1)「言葉の特徴や使い方に関する事項」(2)「情報の扱い方に関する事項」、「思考力・判断力・表現力」では「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均を上回っています。

出題の趣旨として「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題」、や「場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える問題」において正答率が高くなっています。

一方、「思考力・判断力・表現力」の「話すこと・聞くこと」において「聞き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫する問題」や「論理の展開などに注意して聞く問題」「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫する問題」での正答率が低くなっています。

文法や表現の技法を目的に応じて使い自分の考えを書く力を育成していきます。また、文章を読むことをとおして考えた内容を、グループワークなどを通して伝え合う際、自分の考えがわかりやすく伝わるように根拠を明確にして発表したり、人の意見を聞いて互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりする力を育成していきます。